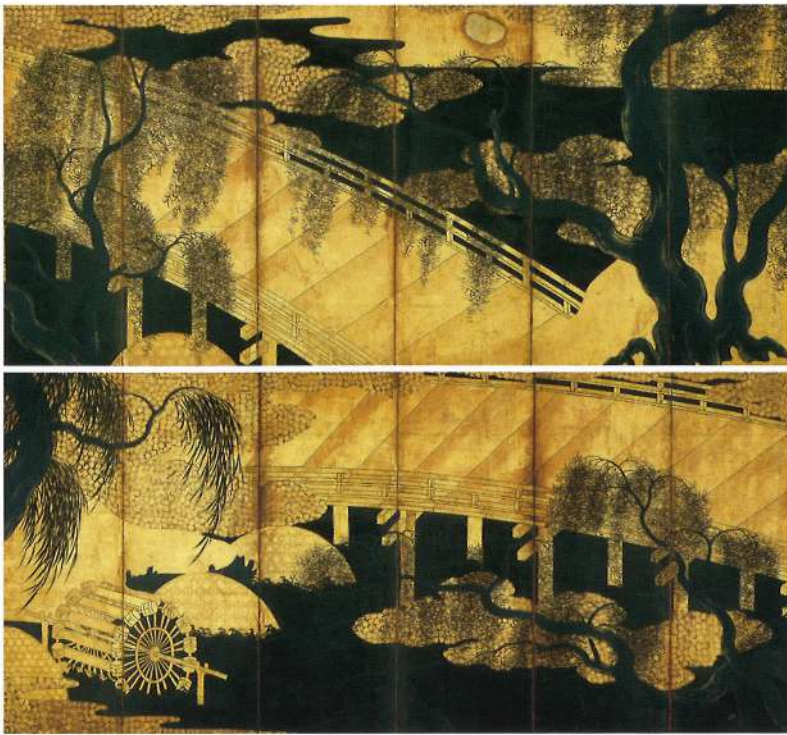


蜂須賀十五代 武の伝統と心の継承

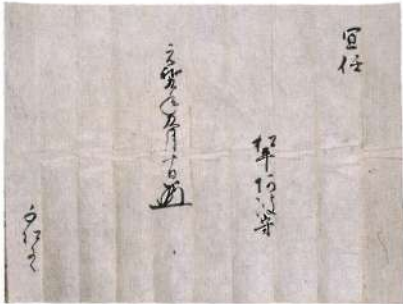
尾張の豪族から織田信長、豊臣秀吉に仕え、天正一三年（一五八五）阿波の大名となった蜂須賀家。元和元年（一六一五）には、大坂の陣の功績により淡路国を増さされ、阿波・淡路両国二五万七千石を領する四国最大の大名となりました。

阿波の大名蜂須賀家は、藩祖家政から一四代藩主茂詔まで一五代を数えます。江戸前期から中期にかけては、藩主が政治を主導した「直仕置」から「家老仕置」への移行、江戸中期から後期には藩政改革の強行とその後の地道な行財政政策の進行、そして幕末・維新期の混乱と、蜂須賀家一五代の歩みは、江戸時代の阿波・淡路の歴史そのものといえます。

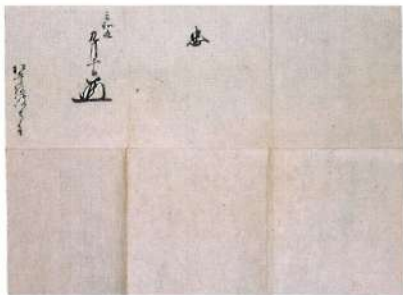
ここでは、歴代当主の業績に加えて、蜂須賀家の武の伝統と殿様が受け継いだ精神性について探ります。



柳橋水車図屏風 六曲一双
江戸前期 当館蔵 蜂須賀家旧蔵
徳島県指定有形文化財 [前期]



徳川秀忠官途書出 元和9年(1623)
千松(忠英)宛宛 [前期]



徳川秀忠一字書出 元和9年(1623)
松平阿波守(忠英)宛 [前期]



展示構成
I 蜂須賀家歴代群像
II 描かれた阿波・淡路
III 徳島城御殿と大名蜂須賀家の美

紫糸威大鎧
江戸中期 当館蔵
8代藩主蜂須賀宗鎮所用
徳島市指定有形文化財
[後期]



革包丸龍文具足 江戸前期 当館蔵
蜂須賀至鎮所用 [前期]



波濤蒔絵鏡
江戸時代 当館蔵
初代飯塚桃葉作
徳島県指定有形文化財
[後期]



虞美人・花鳥図 江戸後期 当館蔵 10代藩主重喜次女載姫筆 [後期]

白綾子地能楽模様打掛
江戸時代 当館蔵 [前期]

